

梅雨明け後の農作物技術対策

平成30(2018)年7月2日

塩谷南那須農業振興事務所

6月29日、気象庁より梅雨明けの発表がありました。平年に比べ22日早く、昨年より7日早い梅雨明けとなりました。宇都宮气象台、栃木県の週間天気予報（平成30(2018)年6月29日11時発表）によりますと、向こう一週間は、最高気温、最低気温ともに、平年より高く、降水量は少ない見込みです。

また、県内のダムの貯水状況は、現在、鬼怒川水系で平年の約8割、那珂川水系で平年の約9割であり、今後の降水量によっては、農業用水に不足が生じることも予想されますので、今のうちから節水に心がけてください。

農作物の管理については、以下の技術対策により高温の影響を軽減するよう努めてください。

I 普通作物

1 水 稲

- (1) 高温時に長期間湛水すると根腐れが発生しやすいので、こまめな間断かん水により根の健全化を図る。
- (2) 用水の確保が不十分な地域では、番水方式等水系ごとに調整を行う。また、ほ場でのかけ流しを行わず、ネズミ穴等による漏水に注意し、節水に努める。

2 大 豆

- (1) 暗渠が施工してある水田では暗渠の排水弁を閉める。
- (2) 乾燥防止対策を含め、適期に中耕培土を実施する。

II 特用作物

1 こんにゃく

- (1) アブラムシ類の発生に注意し、登録農薬を散布する。

III 野 菜

1 全 般

- (1) かん水できるほ場では積極的にかん水を行う。
- (2) 施設栽培（雨よけ栽培を含む）では、できるだけ換気や遮光を行い、施設内の温度を下げる。
- (3) 定植する場合は、定植4～5日前からかん水を控え、苗を硬く育て、定植前に十分かん水を行う。定植は夕方に行い、可能な限りかん水を行う（特にセル成型苗はかん水を行う）。
- (4) 育苗での栽培が可能な野菜は、直播は行わず、育苗栽培にする。
- (5) 収穫した野菜は、できるだけ涼しい所に置き（直射日光と風が当たらない所）、鮮度を保つ（予冷庫があれば予冷庫に入れる）。
- (6) ハダニ、アザミウマ類が多発しているので、登録のある農薬で計画的に防除する。

2 いちご

- (1) 採苗後は寒冷紗の被覆とこまめなかん水で活着を促進するが、過湿には注意する。
- (2) ポット育苗は乾燥が激しいので、かん水回数を多くし、むらのないように注意する。ただし、炭疽病の発生が懸念されるので、夕方までにポットの表面や茎葉が乾くようにする。
- (3) ハダニ類が発生しやすいので、登録のある農薬で計画的に防除する。
- (4) 炭疽病が発生しやすいので、登録のある農薬で定期的に防除する。

IV 果 樹

1 果樹全般

- (1) 乾燥が予想されるので、草刈や藁・草等でマルチを行う。
- (2) かん水ができるほ場では、かん水を行う。
- (3) 定植した苗木の樹冠拡大を図るため、かん水を励行する。
- (4) ハダニ類が発生しやすいので、登録のある農薬で計画的に防除する。

V 花 き

1 りんどう

- (1) 乾燥により萎れると同化作用が低下し生育が悪くなるので、かん水を行う。特に今年定植の株は注意する。また、施設においては、寒冷紗による遮光を行う。
- (2) アザミウマ等が多発しやすいので、発生初期に登録のある殺虫剤で防除する。

2 露地ぎく

- (1) 萎れのひどいほ場ではかん水を行う。
- (2) アザミウマ等が多発しやすいので、発生初期に登録のある殺虫剤で防除する。

VI 畜 産

1 家畜暑熱対策

(1) 断熱・断照

- ① よしず、樹木、ブラインド等を設置し日除けする。
- ② 屋根に石灰、白ペンキ等を塗装し、畜舎内に侵入する放射熱を除去する。
- ③ 屋根裏面へ断熱材を設置したり、屋根上に寒冷紗等を設置し断熱する。

(2) 送 風

- ① 壁面、窓を開放し畜舎内の風通しをよくする。
- ② 換気扇、ダクト等を設置し換気をする。
- ③ 扇風機は、外気の取入れ、家畜への送風を考慮し角度を調整する。牛では斜め下方向に吹き下ろす角度が一般的である。

(3) 散 水

- ① 屋根に散水し、屋根自体の温度を下げる。
- ② 細霧システムを設置し、畜舎内温度の低下を図る。
- ③ 家畜に直接散水し体温上昇を抑える。
- ④ 散水する場合は、湿度の上昇に注意する。

(4) 家畜の管理

①暑熱ストレスを受けやすい家畜（高泌乳牛、子牛、肥育牛など）を、畜舎内の比較的涼しい場所に移動する。

②乳牛、繁殖牛等は、夜間放牧を実施する。

③日中の放牧、パドック放飼は、必ず樹木などがある牧区（パドック）で行う。

④肥育牛、肥育豚、ブロイラーなどは、密飼をさける。

⑤家畜の行動をよく監視し、異常家畜の早期発見・早期治療に努める。

⑥畜舎環境を良好に保ち、アンモニア、ハエなどによるストレスを軽減する。

(5) 飼料給与

①新鮮な水が、不断吸水できるように配慮する。

②中古バルククーラー、井戸水などを利用して冷水給与に努める。

③良質飼料、主要ミネラルを給与し、家畜の健康維持に努める。

④飼料の栄養濃度を高め、採食量低下に対処する。

⑤反芻家畜の場合、消化性の高い良質粗飼料を給与する。

⑥重曹、重炭酸カリウムなどのバッファー剤を給与し、ルーメン内のpH低下を抑えるとともに、ミネラル供給に努める。

⑦サイレージ、加水TMR等の高水分飼料を給与する場合は変敗に注意する。

⑧飼料は涼しい時間帯に給与するとともに、給与回数を増やし、採食量低下に対処する。

VII 節水対策

1 節水のポイント

(1) こまめな水管理（給水栓や取水口の操作）に努める。

(2) 水のかけ流しはやめる。

2 渇水時の対応

(1) 番 水

①用水区域内の地区を区分し、順番に配水する。

②ほ場ごと順番に時間を決めて配水する。

③水源から数日の間隔で取水する。

(2) 反復利用

上流のほ場からの排水を堰止め、ポンプ等でくみ上げて再利用する。

【相談窓口】 塩谷南那須農業振興事務所 経営普及部 ☎0287-43-2318

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。



- ・日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- ・こまめな休息、水分補給を行いましょ。
- ・体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょ。